

# 血糖濃度の調節

— からだの調節を指令するしくみの実際 —

「生物基礎」担当 Osami Nabeta

03体内環境とその維持⑤

[http://blog.goo.ne.jp/bio\\_ascidian](http://blog.goo.ne.jp/bio_ascidian)

**授業の目的** 前回④「内分泌と自律神経」と同様です。

**授業の目標** 次の(1)(2)の各状況で、血糖濃度(=血しょう中のグルコース濃度)について「内分泌と自律神経が具体的にはたらくようす」を説明できるようにする。その際に、必要であれば、〔目のつけどころ〕を参考に確認する。

(1) 食事をして、体内に大量のグルコースが入ってきたとき。(つまり、お腹いっぱいするとき)

(2) 12時間ほど食事を採れず、何も食べていないとき。(つまり、とても空腹のとき)

〔目のつけどころ〕

- ・血糖濃度は、平常時と比較して、高いか、低い。
- ・血糖濃度は、からだのどこで、高い/低いを確認しているか。
- ・血糖濃度を変化させるための指令は、からだのどこから、どのようにで出るか。
- ・血糖濃度を変化させるための指令は、何通りあるか。
- ・血糖濃度を高くしたり、低くしたりすることを行っているのは、からだのどこか。
- ・調節した血糖濃度は、どのようにして最初に指令を出したところに伝えられるか。

**参考資料** 教科書p.108～109 血糖値の調節(教科書は「血糖濃度」ではなく「血糖値」となっています)

※血糖値とは、血しょう100ml中に含まれるグルコース質量のことです。